

中項目	小 項 目		自 己 評 価			中項目評定	意見、提言等	今後の学校改善に向けて
			小項目評定	中項目評定	現 況			
学び合い	1	支持的風土を育てる学級・学年集団づくりの実践	A	A	<ul style="list-style-type: none"> ・「自分自身の良さががんばり」に気付ける取組を行い、個々の自尊感情の向上に努めた。また、学級での仲間とのつながりを深める活動を通して、互いに認め合う学級の支持的風土づくりを進めた。 ・教科の研修、ICT研修などを行いながら、児童の学力向上につなげる実践を進めた。 ・校内研究「自ら考え、共に学び合う子どもの育成」に関わり、今年度も読み解く力の育成を窓口に研究を進めた。さらに今年度より、「疑問を持って、追求し合う子ども」を目指す子ども像にあげて研究を行った。研究会や校内研究推進委員会をもち、児童が疑問を持ちながら主体的に学んでいるかという視点で、授業改善を進めた。 	A	<ul style="list-style-type: none"> ・今後もタブレットを学び合いに活用してください。 ・どの学年、どの教科においても、先生方の創意工夫された授業を参観させていただいた。子どもたちも熱心に学習に取り組み、タブレット端末の活用が十分できている。 ・自尊感情の向上には、家庭の関与も重要なので、保護者と連携した施策が必要。 ・楽しい学校生活を送る中で、自分の長所をしっかりと意思表示でき、仲のよい友だちと切磋琢磨しながらともに活動していくことは、非常に良いことだと思います。 ・支持的風土とは具体的に何を指すのかわかりづらい。 ・「読み解く力の育成」の具体的事例にはどんなものがあるのでしょうか？ ・授業改善は具体的にどのように進めていくのでしょうか。子どもたちの対話型を中心にしてほしい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・個々の持ち味を互いに認め合い、一人ひとりが大切にされる支持的風土のある学級作りに努める。 ・個々の自尊感情の向上を図るための具体的な取組を計画的に進める。 ・情報主任と連携を図りながら、授業においてICT、特にタブレット端末の活用を進め、校内で共有を図る。 ・「疑問を持って、追求し合う子ども」の実現に向けて、校内研究をさらに充実させ、授業改善を進める。
	2	協同する体験・伝え合う喜び・コミュニケーション能力の育成を図る授業の工夫改善（ICTの活用含む）	A					
	3	主体的・対話的で深い学びを追求する授業研究や研修会	A					
道徳教育	4	生命を尊重する心やいじめを許さない態度などの道徳的実践力を育てる活動の実施	A	A	<ul style="list-style-type: none"> ・道徳科として、道徳の教科書及びノート、デジタル教科書を活用して、週一時間の道徳の授業を確保できた。 ・研修会に参加した後、研修の資料や内容をまとめた通信や職員研修で教員に発信し、指導力向上に向けて進めた。また、OJT研修として道徳科の授業参観を行い、指導力向上を図った。 ・11月に、全学級、道徳科の授業参観を実施し、保護者や地域に開かれた道徳教育を進めた。 	A	<ul style="list-style-type: none"> ・道徳科の授業の週1時間の確実な実施と、人権週間及びいじめ防止啓発月間の取組等を通して、道徳的実践力を育む。 ・授業の構成や指導方法などについて校内研修を開催したり、教師間で教材研究を行う機会を設けたりするなど、指導力向上に向けた研修を行う。 ・全ての教育活動を通じて、児童の豊かな心を育む。 ・道徳参観の取組を継続し、学校だよりや学年通信などを活用して、保護者とともに道徳教育を進める。 	
	5	道徳科の授業・評価に関する研究や資料の開発・整備・交流	B					
	6	保護者等への道徳科の授業公開	A					
体力づくり	7	たくましい心と体を育てる魅力ある授業の工夫改善	A	A	<ul style="list-style-type: none"> ・今年度も、水泳学習や運動会に向けての学習の取り組みを行うことができ、目標に向かって学習を進めることができた。また、各学級担任が、体育科の授業で運動量を確保し、子どもたちが楽しんだり目標に向かって努力できる機会を設けていた。 ・夏季休業中に、実技研修を行い、マット運動に関する理解を深めた。 ・運動委員会を中心に、なわとびの記録会や体力テストに向けた練習など、体を動かすことの楽しさを味わう機会づくりを行った。特に、1学期に大津市小学校体育連盟主催で行われた「スポーツランキング」では、エントリー率で第2位の成績をおさめた。 	A	<ul style="list-style-type: none"> ・今後、体育学習に関わる研修の機会を設け、教職員の指導力向上に努める。 ・「スポーツランキング」や「OTSUスーパートライ」などへのエントリー率およびエントリー数が増加しているので、継続して取り組みを行う。 ・身体を動かす喜びを味わう活動を進める。 	
	8	体力づくりを推進する運動実践	A					
	9	体を動かす気持ちよさを体験させ、進んで体を動かそうとする意欲の育成	A					
指導改善	10	学力向上を目指した指導体制・指導方法の工夫改善	A	A	<ul style="list-style-type: none"> ・全員が公開授業を実施し、校内研究授業後の研究協議会の場を持つことができたため、研究授業を通して指導方法の改善や授業形態の工夫などについて話し合うことができた。講師を招いて、児童理解や指導方法についての助言をいただいた。 ・OJT研修で、全教員が講師となり、それぞれの実践を交流し、指導力向上に努めた。 ・それぞれが見通しをもち、時間を意識しながら仕事を進めることができたので、全体的に毎日の時間外勤務を減らすことができた。 	A	<ul style="list-style-type: none"> ・指導改善は日々の積み重ねです。一日一日を大切に指導願います。 ・仕事にゆとりがある先生方であってこそ教育活動の質の改善ができる。さらなる働き方改革に取り組み、超過勤務時間を削減していただきたい。 ・教員数が少ない中で、授業以外にも多くの業務をこなすことは大変だと思います。健康第一をモットーに、無理のないように心掛けてください。 ・今やブラック企業と言われる中で、教師のモチベーションを維持し、子どもたちに意欲と好奇心をもたせることは、大切であり、難しいことです。教師が喜びをもてる環境にしてほしい。 ・放課後3～4人の先生と30～40分程度、相談ができる時間がとれたらうれしい。現場の生の声を聞いてみたい。 	
	11	教職員の指導力、情報活用能力、及び組織的な教育力の向上	A					
	12	働き方改革の取組と教育活動の質の改善	B					

家庭・地域との連携・協働	13	保護者の子育てに対して積極的な支援	B	A	・コミュニティ・スクールとして地域からの協力・支援が積極的で、栽培活動等各学年の教育課程に位置づけながら進めることができた。今年度もまちづくりについて、日吉台の歴史について、昔遊びについてなど、たくさんの地域の方にご講話いただいた。 ・地域人材活用「学習サポーター」（ひよサポ）等の取り組みについては、さらに様々な学年の授業のサポートに協力していただくことができた。 ・学校便りや学年通信、HP等で情報発信に努めたが、学習面への取り組みについても保護者や地域にお知らせし、共通理解して取り組んでいきたい。 ・毎日のスクールガードの方々の見守りのおかげで、登下校を安全・安心に行うことができた。防犯教室は、6月に1年、3年、5年の児童の参加という形をとって実施することができた。今年度より不審者対応の避難訓練も行った。	A	・地域との連携を今後ともよろしくお願ひします。 ・コミュニティスクールとしての地域からの協力・支援体制が確立されていることはすばらしい。今後より一層の協力・支援を進めたい。 ・スクールガードなどに保護者の参加がほとんどない。PTAなどを通して働きかけをしてはどうか。 ・学校は比較的安全だと思うが、自宅や通学途上の安全（防災）教育はできているか。 ・テトルの活用によって学校が取り組もうとしていることや学校と家庭の連絡もよくとれているように感じます。 ・学校、地域、家庭の連携が最も大事ですが、中心になるべきは家庭だと思います。保護者の子どもに対する理解が少し薄いのかと思います。 ・これはこのまま続けたい。	・保護者の子育てに対する支援については、学校はもとより、SCや教育支援センターなど、保護者が気軽に相談できるようつなげていく。 ・来年度も、教育課程の中に、地域人材を有効活用する指導計画を位置づけ、学年の実態に合わせて効果的な実践を行う。(防犯教室・人権学習・総合学習・生活科等) ・学校と地域とが協賛する行事を年間行事予定に位置づける。人との出会いを通して学ぶ体験活動を推進する。 ・学校だより、学年通信等の発行に加え、HPの更新を定期的に行うことで充実させ、学校の取組を保護者・地域に伝える。 ・地震や不審者等の避難訓練や各学年の学級指導において、防災教育の持ち方を工夫していきたい。 ・防犯教室については、全校児童の参加が難しい場合は、例年1年、3年、5年児童の参加という形を固定していく。
	14	保護者・地域との交流や情報発信、参観、懇談会、研修会の実施、地域人材の活用	A		・いじめの早期発見、生徒指導上の課題に関わって、報告、連絡、相談を行い、早い段階での組織対応を行った。 ・一ヶ月に一回「キラキラさんチェック」という児童アンケートを実施し、いじめの早期発見、早期対応を行った。 ・スクールカウンセラー来校時には、児童の相談や保護者との個別面談を実施した。スクールカウンセラーとの連携により、児童や保護者への対応の仕方についての理解を深めることができた。	A	・今後とも連携を大切に。 ・保幼小および小中連携を大切にさせていただいていることに感謝します。 ・4学区の保幼小中が連携を密にして、児童の安心・安全を確保してほしいと思います。 ・このまま続けてもらいたい。	・地域の保幼小連携を大切に進めていく。 ・小中連携も、年間通じて連携をとり、児童のスムーズな中学校進学を支援する。 ・保幼との連携を強化し、スムーズな入学につなげる。
	15	防災・防犯教育の推進と、安心・安全な学校づくり	A		・いじめや暴力行為、不登校等生徒指導上の諸課題の早期発見、日常的な予防指導	A	・いじめなどの早期発見を。 ・児童数が少ないことを子どもたち一人ひとりに目を届かせることができる生徒指導の利点にしてほしい。 ・地域、家庭、学校の連携が第一かも。いつもと違う何気ない行動、ささいな言動を見逃さないください。 ・先生同士の共有も大切。 ・何とか6年卒業までに適応障害などを克服できるようにしてほしい。	・毎週の職員打ち合わせや、毎月の児童アンケート、教育相談において、全職員の情報共有を図り、児童理解を深める。 ・児童の気になる行動や言動を見逃さず、適時、個別面談やケース会議を設定し、指導支援の方向性を検討する。 ・「報告、連絡、相談」を密にし、職員間における情報共有を図り、組織的な対応を進めていく。 ・「日吉台っ子の約束」を毎月の生活目標に掲げ、児童の学校生活の中に位置づけ、よりよい学校生活がおくれるよう指導していく。 ・今後もスクールカウンセラーと連携し、児童の対応、保護者への対応を実施していきたい。
保幼小中の連携	16	子どもの校種間交流や教員の出前授業	A	A	・校内委員会などで必要と判断した児童の個別指導計画について、保護者と担任との連絡および相談を重ね、作成につなげることができた。 ・特別支援学級の児童だけでなく、特別支援学級への入級を見据えた児童の学習の体制について、保護者と相談しながら、段階を踏まえて進めていくことができた。 ・教育支援センターとの連携を中心に、通常学級での難しさを抱える児童および保護者に対する指導や助言などへのアドバイスを得られた。	A	・保護者との連携、教員間の情報共有をよろしくお願ひします。 ・学校と家庭（保護者）との良好な関係を築き、子どもの課題や成長に向けての共通理解を進めてほしい。 ・昼休みなどに地域の人が学校に入るような動きがあったように記憶しているが、どうなったのか。 ・家庭と学校が連絡を密にとって、子どもにとってよりよい選択を話し合っていたらと思います。 ・このまま継続してほしい。	・特別支援教育の必要性が感じられる児童がいるため、児童の学習の機会を損なわないよう、保護者との連携、教員間の情報共有などを充実させる。 ・児童の困り感、保護者の困り感に寄り添い、保護者の悩みを真摯に受け止め、児童にとってより良い環境づくり、より良い指導を目指す。 ・通常学級での支援の必要な児童への対応について、研修やコーディネーターからの情報提供などで、全教員がスムーズに対応できるようにする。 ・必要に応じ、関係諸機関との連携を進める。
	17	校種間の授業公開や合同研修会	A		・児童の91%、保護者の95%が肯定的な回答をしている。	A	・100%は無理としても、一步一步前進してください。 ・「学校が楽しい」と答える子どもが多いことはすばらしいが、マイナス評価の子どもに対しての対策を大切にしてほしい。 ・子どもたちが「学校が楽しい」学校にとっては一番うれしい言葉だと思います。 ・何か一つでも学校へ来る楽しみを見出してほしい。	・マイナス評価に至る原因を探り、満足度100%を目指し取組を進める。 ・全児童を全教職員で指導・支援していく意識を高くもち、児童や保護者に寄り添った教育活動を進める。 ・友達と協力して成し遂げた喜びや、一緒に活動した楽しさを味わえるような活動を積極的に取り入れる。 ・分かる楽しさ、認められる喜びが感じられる授業を展開する。
	18	保幼小中の接続期の教育課程の編成等校種間のカリキュラム研究	A		・関係機関と連携した相談体制の充実	A		
生徒指導	19	いじめや暴力行為、不登校等生徒指導上の諸課題の早期発見、日常的な予防指導	A	A	・特別支援教育の必要性が感じられる児童がいるため、児童の学習の機会を損なわないよう、保護者との連携、教員間の情報共有などを充実させる。 ・児童の困り感、保護者の困り感に寄り添い、保護者の悩みを真摯に受け止め、児童にとってより良い環境づくり、より良い指導を目指す。 ・通常学級での支援の必要な児童への対応について、研修やコーディネーターからの情報提供などで、全教員がスムーズに対応できるようにする。 ・必要に応じ、関係諸機関との連携を進める。	A		
	20	生徒指導・教育相談体制を確立と組織的な推進	A					
	21	家庭・地域・関係機関との連携による指導	A					
特別支援教育	22	個別の教育支援計画及び個別の指導計画の作成と活用	A	A				
	23	組織的・計画的な特別支援教育体制の確立	A					
	24	関係機関と連携した相談体制の充実	A					
満足	25	児童生徒の学校満足度	A	A				